

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金交付金）事後評価調査

都道府県名	長野県	事業実施主体	長野県・阿智村	地域再生計画名	住民一人ひとりの人生の質を高められる持続可能な村づくりのための地域再生計画
計画期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	建設農林課長 櫻井 健	地域経営課長 熊谷 修一	

	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価
			基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績	指標総数	達成数				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	耕作放棄地の解消	144ha	H25	125ha	H29	139ha	106ha	(H31) R 2	148ha	×	2	耕作放棄地は農業委員・農地集落支援員の尽力により集積・配分しているが、高齢者による耕作放棄・不在地主の増加に伴い、荒廃農地は増えている。今後は非農地判断を進め、農地の整理を進める。
	指標 2	村内入込客数の増加	134万人	H25	142万人	H29	130万人	150万人	(H31) R 2	71万人	×	5	H29における中間評価では91.5%の達成率であった。更なる交流人口の増を目標に推進してきたが、新型コロナウイルス感染拡大が入り込み客数に大きく影響し、目標を下回った。収束と必要の回復は不透明な見通しではあるが、観光交流人口を増加させていくための施策展開は継続して行っていく。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	ナイトツアーの開催において智里西地区における交流人口の増加	3.3万人	H25	8万人	H29	12万人	10万人	(H31) R 2	9万人	×	新型コロナウイルス感染拡大が大きく影響し、目標を下回るきっかけとなった。収束と必要の回復は不透明な見通しではあるが、「ナイトツアー」を観光のコアコンテンツとして、智里西地区における交流人口を増加を目指した展開を継続して行っていく。 軸となる林道弓の又線の開設が進んだことにより、支線となる作業道も目標を上回る開設延長となった。更に開設を進め、間伐を主とした森林整備の推進に寄与する。 作業道の開設延長の増加に伴い、沿線の森林整備が進んだ。今後も引き続き計画的に森林の整備を推進して行く。	
	指標 2	弓の又林道沿い作業道開設延長の増加	0m	H25	750m	H29	855m	1250m	(H31) R 2	2242m	◎		
	指標 3	弓の又林道沿い森林整備面積の向上	0ha	H25	36ha	H29	58.11ha	60ha	(H31) R 2	88.97ha	◎		
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度 (H29)	最終実績								
特別措置を適用して行う事業	村道拡幅改良事業		0.54km	0.15km	0.54km	計画区間の改良が完了し、地域住民、来村者の安全な交通の妨げとなっていた部分が解消され通行の安全を確保された。今後は機能を低下させないよう維持管理を行っていく。							
	林道開設事業		0.19km	0.01km	0.25km	地形急峻地質脆弱な区間で、林道事業では県内唯一の立体ラーメンプレハブ構造橋の技術的難度の高い工事で、計画より完成が遅れたが、完成に至った。今後は地域を結ぶ林道が安全で容易に通行できることが観光客の増加、交流人口の増加の目標達成に繋がるため、適正な維持管理を行っていく。							
その他の事業	花桃まつり		花桃まつりの実施			毎年実施してきた花桃まつりは、新型コロナウイルスの状況をふまえ令和2年度は自粛となった。今後の状況は不透明ではあるが、知名度の増しているイベントであるので、5月の連休に満開となれば入込客の大幅増が見込まれる。引き続き花桃まつりは継続する							
	グリーンツーリズム		農業体験、間伐等の森林整備体験			修学旅行で農業体験の受入や企業とタイアップした森林整備を実施している。地域住民との交流が図られており、観光客の増加、交流人口の増加に繋がるよう引き続き行う。							
	村道整備		集落内、交流施設への連絡道路整備			村単独事業により国道と山村体験館を結ぶ道路拡幅改良を実施。その他にも屋温泉内の舗装打替工事を実施し、来村者が安全で快適に移動できる道整備が行えた。今後も計画的に実施を行う。							
	中山間総合整備事業		集落内農道、農業施設の整備、獣害防止柵の設置			県営事業で優先的に実施している獣害防護柵の設置により、獣害被害が激減している。耕作者の耕作意欲低下にも効果があり、耕作放棄地の面積拡大を抑制している。引き続き長野県と連携し早期の獣害防護柵設置完了を目指す。							
計画外で独自に実施した事業	河川愛護活動		河川整備の実施			年に2回地区による河川内の除草・草刈り等を実施している。環境美化により観光客が再度訪れたいと思う魅力ある地域づくりと、住民の環境美化意識高揚を図っている。引き続き事業を継続していく。							
④評価方法	農業、観光、商工に携わる地元関係団体や、村内の各分野の代表住民からなる審議会において、実施状況等の評価・検討を行った。												
⑤事後評価の公表方法	阿智村ホームページ												
⑥計画全体の総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本地域再生計画では、地方創生推進交付金を活用して村道整備と林道整備を一体的に実施し、地域を連携する道路網の整備を行い観光客の増加及び交流人口の増加を目標に事業を実施してきた。客層の変化や、新型コロナウイルスの状況により、村内入込客は減少し目標達成には至らなかったが、本計画実施地区の智里西・浪合地区では、「星空ナイトツアー」等新たな取り組みを行い入込客数の増につなげている。また、「星空ナイトツアー」以外の観光資源を活用した取組も行われており併せて入込客の増加が期待される。</li> <li>・林道を開設した事により、未整備の山林に搬出間伐等の森林整備が進んできた。引き続き支線となる作業道の開設を行い森林整備の促進を図る。</li> </ul>												
⑦今後の方針等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地の解消では集落支援員等を活用する中で進めてきているものの、新たな耕作放棄地の発生もあり計画通りに解消は進んでない状況がある。現在行っている補助事業を活用した担い手の育成や、地域の中心となる集落営農の組織化を進め新たな耕作放棄地の発生を抑えるとともに、原野、山林化してしまった農地の解消に積極的に関わり全体の耕作放棄地解消につなげていく。</li> <li>・観光入込客については、計画通りに増加してない状況にあるが、「星空ナイトツアー」等を中心に、村内各地の観光資源とも連携を図り、「阿智村観光拠点整備計画」「日本一の星空」ブランドを核とした、「商工観光業連携の産業振興計画」により多種多様な取組みを行い村内観光入込客数が増えるよう施策展開する。</li> <li>・観光立村である本村では林道弓の又線を、森林整備はもとより、人の流れの導線として位置づけ、本計画の効果が現れるよう充分なフォローアップを行う。</li> </ul>												